

第2回 鎌倉市教科用図書採択検討委員会 会議録

日 時 令和6年(2024年)7月10日(水) 14:00 開会
17:00 閉会

場 所 鎌倉生涯学習センター 第5集会室

出席者 北村委員 牛見委員 石川委員 太田委員 鈴木委員
上妻委員 西脇委員 合田委員 岡委員 永瀬委員

事務局 澁谷教育指導課長 濱地指導主事 平野指導主事 竹下指導主事
齋藤指導主事 永井指導主事 石坂指導主事 露木指導主事
福森指導主事 荒川指導主事 岩田指導主事 渡辺主事

- 次 第
- 1 開会
 - 2 種目ごとの説明、協議等
(1) 調査員会の説明及び検討、協議等
 - 3 閉会

会議内容

委員長	鎌倉市立中学校令和7年度(2025年度)使用教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。本日の議事録署名委員を鈴木委員と永瀬委員にお願いするがよいか。
	(よい)
委員長	それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いする。
事務局	では、説明させていただく。本日の半日日程と22(月)の全日日程で調査員報告書などを元に検討してまいる。 種目ごとに最初に資料の確認を、その後に種目事務局より調査員報告について説明させていただく。その後、その報告についての質疑をします。質疑後、暫時調査研究の時間をとらせていただき、調査研究の後、種目ごとに協議・研究に入らせていただく。

委員長	今事務局から説明があったが、ご質問はあるか。 (なし)
委員長 事務局	では、事務局 資料の確認をお願いします。 本日用意した資料は、令和 7 年度(2025年度)使用教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料、学校調査票のまとめ、神奈川県教育委員会中学校用教科書用図書調査研究の結果、令和 7 年度(2025年度)使用中学校教科書編集趣意書である。 また、教科書見本本については、種目ごとに机の前に、学習指導要領については、入り口付近のテーブルに用意した。 以上が本日の調査研究の資料となる。 なお、参考として、昨年度までの、「令和 5 年度全国学力・学習状況調査」の分析結果、「かまくらっ子」の実態調査、「かまくら教育プラン」も用意した。 続いて、追加資料について簡単に説明する。 まず、鎌倉市調査員会種目別調査資料は、調査員会の報告である。のちほど担当の指導主事より説明させていただく。 次に、神奈川県教育委員会中学校用教科書用図書調査研究の結果については、神奈川県教育委員会が神奈川県教科用図書選定審議会からの答申を受け作成されている資料である。 そして、学校調査票は 5 月 17 日から市内中学校 9 校に見本本の巡回展示し、お手元にある調査用紙にある「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校児童にふさわしいか」という 3 つの観点で各校調査研究したものについてまとめたものである。 令和 7 年度使用教科用図書教科書展示会だが、鎌倉生涯学習センターを会場に 7 月 1 日から 7 月 7 日までの 7 日間で開催した。一般市民を対象に教科書各種目見本本、趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示し、7 日間で 125 名来場があった。 また、教科書展示会での「市民アンケート」について取りまとめたファイルを用意した。後ほどご覧いただきたい。
委員長	ここまででご質問はあるか。 なし

委員長	では、事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した内容を改めて確認する。 評価については、検討結果の欄に二重丸と丸を合わせて3つまで付すとし、それぞれの種目ごとに、協議・検討し決めていくこととする。 丸は 鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書。 さらに、二重丸は 鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書とし、それ以外の教科書については記号を付さないこととする。 何か評価について質問・意見はあるか。 なし
副委員長	調査員の作成した資料について、各種目とも短期間にもかかわらず、調査研究の結果をしっかりとめていただいていることと思う。各教科・種目の先生方が調査をし、まとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の子どもたちにふさわしい教科書を選んでいければよいと思う。 したがって、この資料の文言について、意見交換していく中で評価をつけていくような協議の進行はいかがか。
委員長	今、副委員長から協議の進行について意見が出たが、いかがか。 異議なしの声あり
委員長	他に質問・意見はあるか。 なし
委員長	それでは引き続き調査報告について願する。
事務局	では、調査資料について説明する。5月11日開催の採択検討委員会の指示を受け調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、種目ごとに特徴的なことを記述する」という内容を確認した。 また 1 調査員が個人の立場でなく、種目別に調査員会として調査資料を作成する。 2 種目ごとに調査員全員がすべての教科書の調査・研究にあたり、全員の総意として資料を作成するということで報告書をまとめることとした。 5月14日、6月11日、26日の3回調査員会を開催し、取りまとめることができた。

委員長 事務局	それでは種目別の調査資料については、事務局から説明する。 検討時間等を考慮し、報告の順番を入れ替えて行うことをご了承いただきたい。 社会（地理）についてお願いします。 社会（地理）について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 「人々の生活と環境」では、どの気候区分においても左のページに生活の写真が記載されているため、その地域の気候と生活の結びつきをイメージしやすくなっている。また、「領土をめぐる問題をかかえる島々」では、地理的な特色が詳細に説明されており、領土問題について多面的な視点で考えることができる。 「まとめの活動」が、観点別に整理されているため、生徒が学習の定着度を観点ごとに把握することができる。 導入資料とその他の資料の背景が色分けされているため読み取りやすくなっている。 続いて、教育出版について説明する。 「地理の技」が掲載されたページは二次元コードから身につけたい技能を動画で確認することができる。章ごとの「クロスロード」では章で習ったことと SDGs の観点とを関連づけることで、地球的な課題を考えた学習に踏み込むことができる。 教科書右ページの下に、「関連」という部分があり、他分野や他教科との繋がりが記されているため、横断的な学習に繋がられる。 キャラクターのイラストに、障害のある生徒を用いることで多様な生徒が互いに学び合う姿を描写しており、現代の社会の様子に合っている。 次に、帝国出版について説明する。 時事や生徒に身近な話題が、図版として多く取り入れられている。生徒が理解しづらい時差の学習ページの図版や解説、アニメーション解説（二次元コード）が充実している。 日本の諸地域の各節のはじめには、地方を概観する地図があるとともに、生徒が関心をもてる「地図クイズ」（二次元コード）が用意されている。 章ごとに色が使い分けられ、単元ごとの学習を意識しやすいようになっている。
-----------------------	---

	次に、日本文教出版について説明する。 「議論してみよう」のページを活用して、話し合い活動がしやすいようになっている。 「地域調査の手法」で、具体的な方法について詳しく解説されており、生徒が習得しやすいようになっている。 各節の終わりに設けられているまとめページに思考ツールがあり、生徒が学びをまとめられるようになっている。 ユニバーサルデザインフォントが使用されていることに加え、小学校 6 年生以上で学習する漢字の初出箇所によりがながつけられているなど、ユニバーサルデザインに配慮がされている。
委員長	それでは質疑のあるかた。
委員	帝国書院と日本文教出版の 1 番下の表現單元ごとに学習しやすいは何か違いがあるか。 特に帝国をピックアップしたことに理由はあるか。
事務局	それぞれの特徴として挙げたものである。
委員長	協議を進める
委員長	できるだけ多く意見をいただいて最終的に二重丸、丸を決めたい。 各社 3 つ、4 つの意見を出して比較したい。
委員	東京書籍は魅力的な資料が多い。 世界と日本を比べて捉えていくということがわかりやすく、量が多い。
委員	東京書籍は、領土をめぐる問題について国際平和など現代的な課題が取り上げられており良い。
委員	帝国書院は二次元コードの資料が充実している。授業者としても生徒が調べ学習するときにも使いやすい。
委員	帝国書院は思考ツールが 4 種類わかりやすい図が載っている。手順も丁寧に書いてある。 授業の中で活用する場面はあるか。
事務局	教科書の中にはないが二次元コードの中に活用方法が出ている。
委員	帝国書院には特設ページがありわかりやすい図が載っているところが良い。

委員	日本文教出版は思考ツールの使い方が教科書内にしっかり載っている。データ量が少ない分シンプルである。
委員	二次元コードの充実も求められるところである。
委員	4社それぞれの特徴があって面白いが、教科書にまとめがあるなど汎用性があるのは東京書籍や帝国書院である。
委員長	観点の中には鎌倉にとってどうかや学習者中心となっているかなどあるがそのあたりの意見は如何か。
委員	教育出版は領土問題において平和的解決が必要である旨が記載されている。丁寧であり良い。
委員	日本文教出版は議論してみようのページは特徴的である話し合い活動ができる。
委員	教育出版は章ごとのクロスロードにおいて、SDGsに関連づけられていて良い。
委員	教育出版はコラム地理の窓が充実しており、特設目次も用意されており、子どもたちが興味を持つきっかけになりやすい。
委員	日本文教出版と東京書籍は、各項目の章の始めに、小学校との関連が記載されており、導入で扱いやすく小中連携の観点から見ても良い。
委員長	学校からの意見はどうであったか。
事務局	量と質では帝国書院が良いが、二次元コードなどを含めるとそこまでの差はない。日々の授業でどのような子でも学びやすいバランスが取れているのは東京書籍であるという意見があった
委員	情報量の多さでいうと教育出版の方があり、まとめ活動をするには良い。
委員長	では、二重丸は東京書籍、丸は帝国書院と教育出版でよいか。
委員	よい
委員長	社会（地理）はこれで終了する。

事務局	地図について願います。 地図について説明する。 まず、帝国書院について説明する。 気候や産業に関する主題図や、各州や地方の鳥瞰図が豊富に設けられ、地域の特徴をより詳しく理解できるような工夫がされている。 地理的分野の資料だけでなく、歴史・公民的分野に関わる現代の諸課題などが地図から読み取れるように工夫されている。 主題図やデータが豊富に設けられており、学習を深められるようになっている。 地図は5色で印刷されており鮮やかで見やすく、地理的特色など必要な情報が読み取りやすいよう工夫されている。 次に、教育出版について説明する。 二次元コードからデジタル地球儀「My Glove」にアクセスすることで、一般図、衛星写真、3D地球儀などの様々な地図を見ることができ、目的に合わせて使用できる工夫がされている。 江戸と東京の比較ができる俯瞰図が見開き全体に設けられ、歴史や地形を視覚的に捉える工夫がされている。 グラフ・写真などの資料がバランスよく掲載されているだけでなく、アジア、ヨーロッパ、北アメリカなど、授業で時間をかけて扱われる地域は、より多くの資料が取り上げられている。 グラフや地図などでは、色覚特性がある生徒にも見分けやすい配色となっている。
委員長	それでは質疑のあるかた。 なし。
委員長	協議に入る。 2社全部合わせて、ご意見をいただきたい。
委員	帝国書院では地域の文化などのガイドブックのような形で修学旅行などと絡めて学習できる。
委員	帝国書院の地図で発見では地域ごとにクイズ形式で問いが載っているので興味を持ちやすい。
委員	帝国書院は地域ごとの二次元コードのコンテンツがあり教科書とリンクしている。
委員	東京書籍は色が落ち着いていて、調査資料にも3分野の学習に活用

	できる主題図や資料が随所に掲載されており、様々な事象と関連づけて学ぶ工夫がされているところがあり、資料がたくさんあって資料集のような使い方ができる。
委員	東京書籍は、視覚的に見やすい。防災にも触れているので良い。京都などの歴史的な建造物を比較できる。
委員	社会の教諭は地図帳をどの程度使うか。
事務局	教諭によるが、子どもによってはずっと見ている生徒もいる。
委員	帝国書院は統計やデータが充実している。
委員	東京書籍は扱うデータの面白さがある。
委員	地図を3年間どう使うかによるが、1年生向けか3年生向けかで観点が変わる。
事務局	子どもたちが学びのハンドルを握っていくという観点で考えるとデータが豊富な帝国書院を推す声が多かった。
委員長	それでは、二重丸は帝国書院、丸は東京書籍でよいか。
委員	よい
委員長	地図はこれで終了する。 数学について願います。
事務局	数学について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 デジタルコンテンツが豊富に備えられており、視覚的に捉えやすい工夫がされており、生徒が主体的に学びやすくなっている。 つながりを意識した「同じように考えると」、「それなら」という吹き出しが数多くあり、数学的見方・考え方を意識しやすい工夫がされている。 内容のまとまりが1ページごとになっていて、見やすいよう工夫がされている。 観点ごとにチェックボックスの形を変えていて、生徒自身でどの観点を取り組むかを選択し、自己調整しやすくなっている。 続いて、大日本図書について説明する。 例題ごとに、音声付きの解説があり、基礎知識の定着を図りたい生

徒にとって学びやすくなっている。

導入の課題に身近な題材や取り組みやすい題材を多く使っていて、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がされている。

章の振り返りには問題ごとに観点が示されており、自己評価に生かせるようになっている。

めあてが太字で具体的に書かれていて、見やすい工夫がされている。

続いて、学校図書について説明する。

説明する力をつける場面で、対話形式で示すことで丁寧に思考を考えることができ、説明する力を身につけることができる工夫がされている。

「教科書アドバイザーマスマス」が搭載されていて、質問に対して回答をしてくれるので、個別の課題解決の手助けとなっている。

領域ごとに学習の前に振り返りがあり、次の学習に取り組む工夫がされている。

データの活用を使用するときの表計算ソフトの使い方が示されている。

続いて、教育出版について説明する。

定理やまとめに二次元コードがついており、シミュレーションを使用することで視覚的に確認しやすい工夫がされている。

「例」、「確かめ」、「問」の順に設定されていて、スモールステップで学ぶことができ、定着しやすい流れになっている。

関数の単元では、立式につなげるための数量の変化がわかりやすい図で示されている。

章の問題にチェックボックスが二重丸、丸、三角に分かれていて、理解度を把握しやすい。

続いて、啓林館について説明する。

解説動画がとても詳しい内容で理解しやすい工夫がされている。

「説明しよう」、「話し合おう」では、対話をとおして自分の考えを深める工夫がされている。

補充の問題をデータで示すことで、教科書に掲載される問題が減り、軽量化が図られている。

考え方ごとに色を変えて示していて、理解しやすい工夫がされている。

続いて、数研出版について説明する。

数学的に考える必要な問題が多くあり、身につけた知識技能を活用し、深めることができる。

「チャレンジ編」の問題が充実しており、発展的内容に取り組むこ

	とで、学びを深めることにつながっている。 巻末に領域ごとのまとめがあり、学年ごとの既習事項のつながりが見やすく示されている。 チャレンジ問題に例題と問があり、主体的に取り組みやすい工夫がされている。 続いて、日本文教出版について説明する。 アニメーション、シミュレーションが充実していて、問題が捉えやすくなっている。 キャラクターの吹き出しが適切なヒントとなっており、課題解決の手助けとなっている。 巻末の振り返りシートが準備されており、ノートに貼りやすい大きさで作られている。 大切な見方・考え方が定位置に書かれていてわかりやすい。
委員長	協議に入る。7社全部合わせて、ご意見をいただきたい。
委員	啓林館の「補充問題」をデータで示す、とあるが、デジタルコンテンツを含めて考えたときに東京書籍と比べてどうか。
事務局	デジタルコンテンツを含めると変わらないが、必ずしも学習用タブレット端末を持ち帰っているかわからないということも含めると、東京書籍のほうが充実していると言える。
委員	学校図書の「アドバイザーマスマス」は、打ち込むと出てきて、自学自習できるものなのか。
事務局	例題はチャット動画を使わなくても充実していて、例題に載っていないものでも答えてくれるのが「アドバイザーマスマス」のよいところ。
委員	「アドバイザーマスマス」はフォルムがかわいい。
委員	初めの例題はデジタルで用意されている。例えば「連立方程式の解き方」と「アドバイザーマスマス」にうつと、このように出てくる。数式でも、手書きで式を書いてでも、チャットで解き方を「アドバイザーマスマス」が教えてくれる。
委員	これはもう生成AIで、先生が要らなくなってしまう。このような機能は学校図書だけか。
事務局	そうだ。

委員	不登校の生徒でも自宅で自分で扱って学ぶことができる。
委員	東京書籍は身近な題材を扱っているため、数学が苦手な生徒にとっても取り組みやすいようになっている。
委員	数学を中学1年生で始めるときに、なぜ数学を学ぶのか、どういうところで生かせるかということについて、東京書籍は丁寧に示されていて、子どもたちにとっては入りやすいのではと思う。
委員	表紙について啓林館は、中学生にしては幼い印象。数研出版はキャラクターが小学生向けの印象。
委員	数学の知識が意外なところに隠れているというところが各教科書に用意されている。導入にそういう視点がある教科書は、読み物にも同じ視点で工夫されている。そういう意味では東京書籍は面白い。啓林館は数学の歴史を学んでいるような感じである。
委員	大日本図書の4つめの内容。社会に活躍する人物が多く載せられていて、つながりがわかってよい。
委員	数学のアプローチについて、教育出版の素数のところに「素数ゼミ」というものがある。そこから理解に繋がったり、多方面への知識へ伸びたりする良さがあるのではないかな。 日本文教出版の最後、この会社だけが英語で表記している。他の知識についてのつながりがある。子どもたちには楽しい。英語が好きな生徒にとっていいかもしれない。
委員	前回も、英語についての特集があった。
委員	東京書籍はしっかりと問題数が備わっていて、副教材を買う必要がなく、後ろの補充問題も充実している。
委員	学校図書は無駄に問題がありすぎず、あまり数学嫌いにならないような絵や写真の使い方がいいのかなと思った。
委員	数研出版は高校の教科書のようなところがあるが、チャレンジ編の内容が充実していて、しっかり自学自習で伸ばしていこうということが見える。
委員	教育出版は、定理やまとめの部分は生徒にとって嫌なところだが、視覚的に確認しやすいというのは、どのようなことか。

事務局	シミュレーションを使用しているのがいいところである。
委員	啓林館は巻末に入試問題が示されていて、1年生から意識付けがされていてよい。
委員	東京書籍。「それなら」という吹き出し。いろいろな考え方や見方、別の解き方、といった考え方を広げるのはとても大切で、いいコンテンツがあるといえる。
委員	大日本図書。二つの考え方があるときに、両方とも例示されているので、子どもたちも自由に解き方を考えられるので、構成としてよい。
委員	大日本図書。自分が学んでいることが実生活でどう役立つかを扱っている。巻末に「もっと数学の世界へ」とあり、数学を生かして考えようというコーナーがあり、とても面白い。自分が習っている数学を生かして、お金のことなどを考えられてよい。
委員	数研出版の構成、巻末の領域ごとのまとめが見やすい。巻末の付録の「数学旅行」が面白くまとめられている。
委員	啓林館。連立方程式の解を説明する動画を見てみると、とてもアナログで、デジタルでわかりやすいかという点と怪しい。もっと図が動いて、というのをイメージしていた。かといって、「アドバイザーマスマス」は良いかというと、文章量が多いため、読めない生徒にとっては難しい。家でゆっくり学習するときに使うもの。
委員	日本文教出版。白色が鮮やかで見やすい印象。例題があって、考え方があって、設問があって、という流れが苦手な生徒にもわかりやすいと思う。
委員	学校図書。数学は、人によって理解度にかかなり差があって先生方が苦勞している印象がある。そういう視点で見ると、1ページ1ページが分かりやすいし、どういう説明をするとわかりやすいか、ということが示されていて良い。入試という観点で見ると、問題だけのページでは絵が無くテストのような形式になっているところが評価できる。
委員	東京書籍、大日本図書、教育出版、という意見が多くあったかと思うが、学校からは学校図書が2番手に挙がっていた。どうだろうか。
委員	「アドバイザーマスマス」は、学校図書。やはり対話形式が苦手な

	生徒にとっては良い。自ら取り組める子にとっては良い。
委員長	では、東京書籍は二重丸。大日本図書、学校図書、教育出版、の3つが並んでいる印象だが、どうか。
委員	学校図書は丸でよいと思う。
委員	大日本図書は導入の課題に「身近な取り組み」というものがある。1年生だと東京マラソンの通過時刻が載っていて、数学が好きではない生徒でも挑戦しやすく、印象がよい。
委員長	東京書籍が二重丸、学校図書と大日本図書が丸とする。技術について願います。
事務局	技術について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 10 ページ「ガイダンス」では、SDG s など、日常の課題について、持続可能な未来を考えられるように工夫されている。222 ページ「情報の双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決」では、解決例が詳しく示されていて分かりやすく、生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。また、16 ページからの「技術のめがね」「最適化の窓」で、技術の見方・考え方が、具体的にわかりやすく説明されている。二次元コードからのデジタルコンテンツには、動画だけでなくシミュレーションもあり、生徒の個別最適な学びに大いに役立つ。 続いて、教育図書について説明する。 105 ページ「生物育成」では、動物の飼育や水産生物の育成もあり、内容が充実している。また、栽培の細かいポイントについては別冊の「スキルアシスト」で補完している。154 ページ「エネルギー変換」では、課題に対しての解決策が掲載されており、具体的な内容を取り扱っている。36 ページや 86 ページなどでは、問題解決の流れを4コマ漫画で掲載し、問題解決への手順をわかりやすくしている。56 ページには作業手順が細かく写真で説明されており、理解しやすい。 次に、開隆堂について説明する。 「生物育成」では、130 ページからの資料や実習例が多く、生徒が「いろんな作物にトライしてみようかな」という気持ちになるように工夫されている。268 ページからの「計測・制御のプログラミングによる問題解決」では、どのように課題解決するのかまでの流れを、詳しく示している。構成だが、「基礎・基本」「問題解決」「技術と私たちの未来」という作りで、技術の見方・考え方を学べるようになって

	ている。また、表記については、単語が行の途中で改行されないようにし、認識しやすい工夫がされている。 以上で、説明を終える。
委員長	協議に入る。ご意見をいただきたい。
委員	開隆堂は、生物の育成、例えばトマトなど、いろいろなものについて書かれている。土壌や育成に関する段取りのことなども細かく書かれていて、「自分でもできるのではないか」というような気持ちになるのでは。
委員	東京書籍は、「最適化の窓」で、技術とはどういう見方・考え方をするのかが示されており、学習者のモチベーションにつながるというところで、役に立つ。
委員	教育図書。スキルアシストが別冊についている。教科書本体の中にあってもよい内容だとも思うが、用具の細かい説明などがあり、「自分でもできそうだ」という気持ちになれるような、分かりやすい資料がついているのはよい。
委員	教育図書。スキルアシストは、1 ページにまとめられていて非常に見やすい。二次元コードにも道具の使い方がまとめられている。作業する順番を考えて取り組むことができる。
委員	東京書籍だが、他社も同じようなことが書いてあるが、課題の設定や学習課題について特に分かりやすく明示されている。解決策も具体例とともに提示されていて、課題解決がしやすいつくりになっている。
委員	開隆堂。技術を使った職業の方のインタビューで、技術が仕事にどのように結びついているかを紹介している。技術と生活の結びつきをイメージできる。
委員	開隆堂。プログラミングの図が見やすい。ETC の仕組みなどに関連付けて書かれており、技術に興味を持ちやすい。
委員	東京書籍。学習者中心の学びという観点で、自ら主体的に問題を見出し、柔軟に解決していくということが適切に表現されている。
委員	東京書籍に付け加える。20～21 ページなど、問題を解決していくためのプロセス、何が問題でどう解決していけばよいか、そのプロセスがチャートで示されていて分かりやすい。

委員	東京書籍。見開きでそれぞれの項目が完結されているような感じであり、見やすい。
委員長	意見のまとめに入る。東京書籍を推す声、意見が多い。東京書籍が二重丸、教育図書、開隆堂が丸ということでよいか。
委員長	よい。
事務局	続いて、家庭科をお願いする。 家庭科について説明する。 まず、東京書籍について説明する。 消費生活の内容では、207 ページで商品購入のシミュレーションができ、学習したことが実際の消費行動に結びつくような工夫がされている。45 ページの食生活の内容では、6 つの食品群のクイズや、献立作成ができるようなデジタルコンテンツがあり、生活経験の少ない生徒でも主体的に学べるよう工夫されている。すべてのページに二次元コードがついていて、学習の流れの中でアクセスしやすく、活用しやすいよう工夫されている。59 ページにはアレルギーの原因食物が円グラフで示されているため、分かりやすく、生徒が身近なこととして考えられる工夫がある。 次に、教育図書について説明する。 88 ページからの見開きでは、食品群の表現がサイコロの図で示されていて分かりやすく、巻末のシールを授業に活用することができる。165 ページには繊維の特徴が端的に載っており、また主な用途の写真とともに具体的に提示されている。紙の厚み、硬さがちょうどよくめくりやすくなっている。小さな文字も太く、見やすいように配慮されている。 次に、開隆堂について説明する。 学習項目の「A 家族・家庭生活」の項目で、自己肯定感やウェルビーイングに触れられており、そこから家族や他者理解に広げられるよう工夫されている。100 ページには栄養素についての実験が写真で図解され、分かりやすい。各ページの右上に項目に関する写真が掲載されている。104 ページには食べ物が体内でどのように変化していくのか、イラストでわかりやすく示してある。 以上で説明を終わる。
委員長	協議に入る。ご意見をいただきたい。

委員	開隆堂。イラストや写真が多く示されている。130 ページの煮込みハンバーグなど、調理の内容を分かりやすく図解しており、料理に挑戦したくなるような工夫がある。レシピの部分など、教科書として使い終わったあとも家に置いて活用できるのでは。
委員	東京書籍。食品の部分だが、重さや量などが実物大で描かれており、分かりやすい。
委員	教育図書。表記や表現についてだが、小さいながらも写真が豊富に掲載されており、調理や料理、地域食材等、目で見て比較ができるため、分かりやすい。
委員	東京書籍。子どもを育てるところから幼児の児童憲章へ関連付けるなど、社会へつながるページが多く含まれているところがよい。
委員	開隆堂。他教科の分野にも触れている。地域社会のかかわりの部分は公民の内容にもジャンプできる。教科の関連を意識できている。
委員	それぞれ教科書ごとに個性はあるが、料理のメニューなどが最も豊富に載っているのは東京書籍。「プロや匠からの話」も充実しているし、全体的にすっきりしていて読みやすい。
委員	東京書籍。1～6編という構成になっている。指導する側の教員にとっても、年間計画をたてるときなど、使いやすいのではないかな。
委員長	まとめに入る。様々意見が出たが、東京書籍、開隆堂を推す意見が多い。その中でも、教科書のつくりや構成の仕方について、特に東京書籍が優れていると思われるところから、東京書籍が二重丸、開隆堂と教育図書を丸というところでよいか。
委員	よい。
委員長	これで本日の協議は終了する。次回は本日の協議が終わった種目についてはまとめ、報告書を作成することになる。次回に向けて事務局に本日の協議をもとにその取りまとめをお願いしたいがいかがか。 異議なし
委員長	では次回は、協議が残っている種目については、協議を続ける。 本日協議が終わった種目については、事務局の方で報告書の原案を作成していただき、次回はそれをもとに協議を進めることとする。

	次回に協議がまわってしまった種目についても、その検討委員会中に報告書原案を作成する。
委員長	閉会の言葉 事務局から連絡をお願いする。
事務局	本日の資料については事務局で保管する。 第3回については、検討が終了していない種目の検討及び、事務局から報告書原案の提示を行い、種目ごとに総合評価と文章表現の確認を行っていくので、引き続きお願いしたい。

会議録署名
令和7年度(2025年度)使用教科用図書採択検討委員会

委員長（ 太田 洋 ）

会議録署名委員（ 鈴木 雄子 ）

会議録署名委員（ 水瀬 暁子 ）